

令和3年6月21日

## 令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

都・道・府・県		
学校名	管理機関名	設置者の別
豊後高田市立香々地中学校（外2校）	豊後高田市教育委員会	国 <b>公</b> 私

## 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等
豊後高田市立 香々地中学校	<a href="http://www.tyu.oita-ed.jp/takada/kakazi/principal/post-368.html">http://www.tyu.oita-ed.jp/ takada/kakazi/principal /post-368.html</a>	<a href="http://www.tyu.oita-ed.jp/takada/kakazi/principal/post-368.html">http://www.tyu.oita-ed. jp/takada/kakazi/principal /post-368.html</a>
豊後高田市立 香々地小学校	<a href="http://syou.oita-ed.jp/takada/kakazi/mobile">http://syou.oita-ed.jp/takada /kakazi/mobile</a>	<a href="http://syou.oita-ed.jp/takada/kakazi/mobile">http://syou.oita-ed.jp/takada /kakazi/mobile</a>
豊後高田市立 三浦小学校	<a href="http://syou.oita-ed.jp/takada/miura/guide/guide1.html">http://syou.oita-ed.jp/takada/miura/ guide/guide1.html</a>	<a href="http://syou.oita-ed.jp/takada/miura/guide/guide1.html">http://syou.oita-ed.jp/takada/miura/ guide/guide1.html</a>

※結果公表に関する情報について、ウェブ上で公開している場合は公開しているウェブページのURL、ファイル名等を記入すること。ウェブ以外で公開している場合は、公開している情報を閲覧できる場所・方法を適宜記入すること。

※必要に応じて行を追加すること。

## 2. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

小学校の教育課程（香々地小学校・三浦小学校）

○第1学年から第6学年に新設教科「英語科」を設置する。

（第1学年は年間34時間、第2学年から年間35時間）

- ・第1学年の国語科の授業時数より16時間 生活科の授業時数より10時間音楽科の授業時数より4時間 図工科の授業時数より4時間削減し、新設教科「英語科」に充てる。
- ・第2学年の国語科の授業時数より17時間 生活科の授業時数より10時間 音楽科の授業時数より4時間 図工科の授業時数より4時間 削減し、新設教科「英語科」に充てる。
- ・第3学年及び第4学年の総合的な学習の時間より10時間削減するとともに、年間授業時数を20時間増やし、「英語科」に充てる。
- ・第5学年及び第6学年の総合的な学習の時間より10時間削減するとともに、年間授業時数を20時間増やし、「英語科」に充てる。

○第1学年から第6学年まで、毎日10分間を外国語活動の日常化のために「Eタイム」として設置する。（年間38時間）

中学校の教育課程（香々地中学校）

○第1学年から第3学年に「英語表現」を新設する。

・第1、2、3学年は年間35時間とする。

○第1、2、3学年の総合的な学習の時間を35時間削減し、「英語表現」に充てる。  
（教育課程全体は別添の教育課程表参照）

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

豊後高田市香々地地区の小・中学校は、平成21年度に英語教育改善のための調査研究事業、平成22、23年度は教育研究開発(外国語教育関係)の指定を受け、特別な教育課程を編成し、小・中9年間を見通した外国語教育の在り方について研究推進を図ってきた。平成24年度より教育課程特例校としての指定を受け、今日に至っている。さらに、この取組は地域や保護者にも広く支持されており、英会話等を学ぶ場の少ない本地区にとっては大きな特色の一つと言えるものである。

(3) 特例の適用開始日

令和2年4月1日

(4) 取組の期間

令和5年3月31日

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

新型コロナウイルスの感染拡大防止により、APU留学生との交流授業やJICAの国際協力出前講座等の交流授業を計画通りに実施することができなかった。それに代わるものとしてALTによるハロウィーンパーティーやクリスマスパーティーを行い、異文化に触れる機会を作った。また、密を避けるため全校英語集会を学年英語集会に替え、少人数でコミュニケーション活動を行った。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

### <特記事項>

学校だよりやホームページで保護者・地域住民に情報を発信し、研究について情報提供することができた。

また、月1回の学校公開を通じ、授業や活動の意義を理解してもらうことは勿論のこと、学校運営協議会でも、説明する機会や意見を聞く場を設けた。

## 4. 実施の効果及び課題

### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本研究により英語学習を通じてコミュニケーション能力を育成することは、3校の学校の教育目標である「未来を切り拓く人間力のある生徒の育成（香々地中学校）」「アクティブに学びクリエイティブに表現できる香々地っ子の育成（香々地小学校）」「確かな学力を備え、心豊かでたくましく、意欲と実践力のある三浦っ子の育成（三浦小学校）」を達成することにつながると考える。異文化交流等を通じて視野を広げ、英語を用いたコミュニケーション活動の中で自分の考えを持ち論理的に述べる能力を身につけることで、変化の激しい時代においても必要とされる未来を切り拓く力の素地を身に着けることができる。

### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本計画で実現する特別の教育課程による9年間を見通した系統的な英語教育は、人格の完成を目指すという教育の目的や知・徳・体のバランスのとれた生きる力等を育むという教育の目的を示した教育基本法第1条及び2条を踏まえていると考える。

また、義務教育9年間を見通した教育課程の下、小・中学校の教員が連携しながら教育実践にあたることにより、学校教育法第21条に規定する義務教育の目標を達成するための小・中学校の円滑な接続が図られるとともに、学校教育法29条、第30条並びに45条、第46条に規定する心身の発達や学校段階に応じた確かな学力等が育成されるものになると考える。

## 5. 課題の改善のための取組の方向性

小学校から中学校への橋渡し時期に、中学1年生が「書く活動」に対する抵抗感が大きいという課題が以前からある。そこで、今年度は、小学校高学年の目標を「書き写すことができる」から、慣れ親しんだ身近な単語を「書くことができるようにする」とし、小学校に書く活動を取り入れた。その結果、書ける単語が増え、書くことを楽しむ児童の姿が見られた。一方で苦手意識を感じる児童もいる。今後も、楽しく書くための工夫を行いながら活動を続けていき、中学入学後に書くことへの抵抗感を減らして

いきたいと考える。中学校においても、英語表現の全ての単元を書く活動を取り入れるなど、書く活動に重点をおいて取り組んできた。そのため、まとまりのある英文を書ける生徒が増えたが、学年によっては個人差が大きく、語順などを十分に理解していない生徒がいる。今後は、語順を意識しながら文章を書く習慣を身に付けさせることで、正しく英文を書ける正確性を身につけさせたい。

新学習指導要領から導入された「話す活動（やりとり）」においては、ほとんどの児童・生徒が質問されたことに対して返答することはできるものの、再度、相手に質問を返したり会話をふくらませたりすることが難しい。そのため、小・中学校ともに即興性を身に付けさせるための活動を引き続き行いながら、話す力を高めさせていきたい。加えて、パフォーマンス・テストを含む評価の仕方についても、評価規準・方法の見直しを行いながら、より効果的な評価やフィードバックの仕方についての研究を続けていきたい。

今年度、小学校では新学習指導要領の全面実施が行われた。今年度の課題を踏まえ、来年度は再度教育課程の見直しをする予定である。中学校においては、来年度新学習指導要領全面実施となるため、教育課程の大幅な見直しを行う必要がある。

今後も小中連携のもと9年間を見通した主体的・対話的な英語学習を引き続き行い、これからのグローバル社会で必要とされるコミュニケーション能力の育成を図りたい。